

♪ ソルフェージュクラス開講！

2015年11月末、クニトオケのソルフェージュクラスが開講しました。現在、年中から小学6年生までの12名の生徒が楽しく学んでいます。楽器だけでなく、ソルフェージュや楽典などの音楽理論も得意になってもらい、理論的観点からも音楽を好きになってもらいたいという目的で授業を行っています。60分の授業の中では、オーケストラの楽譜を使用して速度記号やリズムの確認、基本的な読み書き、楽典、聴音などを学びます。また、音符カードなどを使ったゲームなども行い、仲間との交流も目指しています。開講して2ヶ月が経ち、子供達はこれまで話したことのなかったオーケストラメンバーとも友達になり、机を並べ楽しそうにしています。仲間とともに学び、演奏する喜びをこれからも感じてもらいたいと願っています。音楽好きな子どもたち！あつまれ！（講師 梶谷）



♪ ブログ続々更新中！

昨年12月から定期的な練習会と各種イベントの様子をホームページおよびfacebookに掲載しております！読者の皆様に石オケの空気を感じていただけるよう、そして身近な存在になれるよう、どんどん発信して参りますので、ぜひ訪れてみてください！（URLとQRコードは右下）

1月16日、新年最初の練習会の様子



EVENT INFORMATION

♪ 石神井 Int'l オーケストラ 第3 回定期演奏会

- ・日時 2016年6月19日（日）13時半開場 14時開演
- ・場所 清瀬けやきホール
- ・曲目 弦楽セレナード（ドヴォルジャーク）  
5弦ヴィオラの為の協奏曲（ルドルフ・ハケン）  
\*5弦ヴィオラ独奏：ルドルフ・ハケン  
弦楽セレナード（チャイコフスキー）

♪ クニト Int'l ユースオーケストラ 第3 回定期演奏会  
(旧 石神井 Int'l ユースオーケストラ)

- ・日時 2016年5月29日（日）13時半開場 14時開演
- ・場所 清瀬けやきホール
- ・曲目 弦楽四重奏曲 第74番「騎士」（ハイドン）  
ヴァイオリン協奏曲第4番（モーツァルト）  
\*ヴァイオリン独奏：安藤梨乃  
ホルベルグ組曲（グリーグ）

♪ 第6回 西谷国登ヴァイオリンリサイタル

- ・日時 2016年5月7日（土）13時開場 13時半開演
- ・場所 浜離宮朝日ホール 音楽ホール
- ・曲目 ヴァイオリン・ソナタ第9番「クロイツェル」（ベートーヴェン）  
ヴァイオリン・ソナタ イ長調（フランク） 他

♪ ふれあいコンサート

- ・日時 2016年4月30日（土）13時頃-17時頃（予定）
- ・場所 石神井公園ふれあい広場

詳細は決まり次第、石オケホームページに掲載します。

石オケ HP  
shakuoke.com



facebook  
facebook.com/Shakujiioke



クニトオケ HP  
kuniorch.com



石神井 Int'l (インターナショナル) オーケストラとは？

2013年8月に、石神井公園を拠点に音楽監督・西谷国登氏により創立された弦楽オーケストラ(通称『石オケ』)。『石神井 Int'l オーケストラ』(石オケ)と、期待の学生からなる『クニト Int'l ユースオーケストラ』(クニトオケ)。アメリカへの遠征など国際的な活動も視野に入れ、地元や地域コミュニティーとも連携。設立にあたり練馬まちづくりセンター登録団体として認可。一流の講師陣をお迎えしてレベルを高めながら、数年後にフルオーケストラ(管弦楽団)新設を目指す。第1回定期演奏会を2014年文京シビックホールにて、第2回定期演奏会を2015年練馬文化センターにて開催し大好評を得る。また、2015年5月には、ルドルフ・ハケン教授を米国より招待しマスタークラスを行う等、海外との交流も盛んに行っている。

NEWS

第3 回定期演奏会に向けて！

定期演奏会まで遂に約半年を切りました！石の上にも3年という諺があるように、この3年間で団員が増えて立派なオーケストラとなりました！また、パート練習も沢山行われ、レベルも練習毎に急上昇しております。自主性も本当に素晴らしい楽団です。今回は、有名な「チャイコフスキーの弦楽セレナード」そして R. ハケン先生の曲を演奏致します。正直練習前「若干3年目のこのオケには、まだ時期尚早かもしれない・・・」という不安が多少ありました。しかし、皆さんの努力と結束で、私の想像以上に団のレベルが上がり、今では、もう1曲演奏出来るのでは！？と思えるようになってきました！本当に皆さん素晴らしいです！是非ともお客様に喜んで貰えるよう、演奏会まで駆け抜けましょう！！(音楽監督 西谷国登)



INTERVIEW

6月に石オケと共演予定のルドルフ・ハケン先生にインタビュー！！

5弦ヴィオラ奏者  
ルドルフ ハケン  
Rudolf Haken



photo by Michael Lyon

Q：ハケン先生作曲の『5弦ヴィオラのための協奏曲』(6月に石オケと共演予定)について聞かせてください。  
R.ハケン氏：Jazzとfiddleスタイルから強く影響を受けた、4つの楽章からなるコンチェルトです。第1楽章は[Possum Trot]、これはイリノイ州のとある田舎道にちなんだ名前です。Possumとはオポッサム、カンガルーのような袋を持つ巨大なラットのような見た目のげっ歯類、の俗称です。オポッサムは臆病でのろまな動物ですが、びっくりするととても素早く走ります。このような特徴をこの楽章では表現しています。第2楽章は[Triathlon]、これは1つのテーマと3つの“athletic”な変奏からなります。第2変奏では、私が大好きなりヒャルト・シュトラウスのティル・オイレンシュピーゲルから引用しています。第3楽章は[Hoedown]、これはフィドル演奏とダンスを行う伝統的な収穫祭です。第4楽章は[Walpurgisnacht]、これは年に

Q：ハケン先生は昨年、石オケでマスタークラスを行われましたが、いかがでしたか？

R.ハケン氏：まず、19世紀ヨーロッパの音楽スタジオを思い起こさせる美しいサロン-スタイルの練習会場に感動したことを覚えています。ユースオーケストラでは、国際色豊かな生徒が集まる事で様々な音楽スタイルが混ざり合い、知性的に、音楽的に、そして社会的に豊かな環境を作り出していました。和気あいあいとした雰囲気の中にも、生徒たちの情熱と勤勉さはマスタークラスにおいて明確に見られ、非常に印象的でした。これは西谷氏の音楽家そして教育者としての素晴らしいスキルが作り出した協調性と信頼感によるものだと考えます。夕方には大人のオーケストラ(石オケ)と共に白熱したセッションを行う機会を得ました。この団体はよく団結しており、ユーモアのセンス(これは音楽表現の上で私が最も重要で最も難しい要素の1つだと考えている)を持って取り組んでいました。一緒に演奏する上で彼らと考えを共有できたことは素晴らしく、音楽が持ちうる解釈には無限の可能性のあることを再確認できました。セッションの間に地震が起きましたが、私の熱中が薄れることは無かったです！私と私の妻を温かく受け入れてくれた西谷氏とその素晴らしい両親にはとても感謝をしています。石オケのメンバーとも、美しい石神井公園を歩き、石オケの活動を献身的に支える石オケの演奏家とコミュニティの人たちに出会えました。6月に皆様と再会できることを楽しみにしています！



2015. 5. 30 マスタークラスにて

1回魔女が集うドイツの伝説を基にしています。演奏者はこのコンチェルトの最後、魔女の甲高いおしゃべりと恐ろしい呪文を思わせる身の毛もよだつようなノイズを鳴らすことに尽力することになります。

Q：6月の共演への意気込みを聞かせてください！

R.ハケン氏：昨年の石オケとのセッションで私のコンチェルトを抜粋で何度か演奏した時、行うごとにどんどんエネルギーになっていくことに快感を覚えました。そして2016年の6月にコンチェルト全体をやることを同意されたとき、さらなる興奮を覚えました。西谷氏が率いる国際的な石オケとの共演は、アジア初演となる私のコンチェルトの為にも理想的な演奏となることでしょう！

※本インタビュー記事および内ページの楽器特集は翻訳・編集されたものです。記事の全文(英語)は石オケHPをご覧ください。

## MEMBER PROFILE



ルドルフ ハケン  
**Rudolf Haken**

5弦ヴィオラ奏者 第3回定期演奏会 ゲストソリスト！



ドイツ系アメリカ人作曲家兼ヴィオリスト。全世界で稀な、5弦ヴィオラを奏する傍ら、マルチな音楽ジャンル（クラシック、現代音楽、ヒップホップ）演奏、作曲活動続ける奇才。教育活動にも熱心で、ウェスト・バージニア大学で教鞭をとったのち、1996年よりイリノイ大学音楽学部教授としてヴィオラ、バイオリン、室内楽にて後進の指導にあたっている。幼少より作曲の才能を認められ、10歳にてイリノイ州シャンペインの管弦楽団にて自身の作品を指揮する。作曲とピアノをフーベルト・ケスラー、ヴィオラをギエルモ・ペーリチに師事。これまでに、全米作曲家協会、アメリカ電子音楽協会、ニューヨークアメリカ音楽作曲家アライアンス、ジューゲン現代音楽リサイタルシリーズ（ドイツ）、ウィーン音楽大学、さらにフランス、スペイン、トルコ、カナダの音楽大学に招聘され、リサイタル、マスタークラス、ワークショップを行う。作曲家としても幅広く活動し、自身作曲の『5弦ヴィオラのための協奏曲』はアメリカ、南米、ヨーロッパのオーケストラにて演奏されている。Centaur レコードにてリリースされたCD（自身作曲のクラリネットコンチェルト、オーボエコンチェルト、5弦ヴィオラコンチェルト）は2007年度アメリカンレコードガイドにて批評家チョイス賞を受賞。2011年には作曲したヴァイオリン コンチェルトがセルビアにて初演される。メディアにもさかんに取り上げられ、2004年にはシカゴのWTTW局が彼の編曲したロックミュージック（ヴァン・ヘイレン、メタリカ）を大々的に放送、シカゴ中心にテレビ局、空港などでとりあげられる。後進の指導にも熱心で、これまでに、アメリカ、ブラジル、ドイツ、オーストリア、フランス、イギリス、イタリア、オランダ、トルコ、日本、韓国、中国、シンガポールにてマスタークラスを開催。現在アメリカ、イリノイ大学音楽部教授。

### ♪-ハケン先生の5弦ヴィオラを特集！その特徴は？作った経緯は？

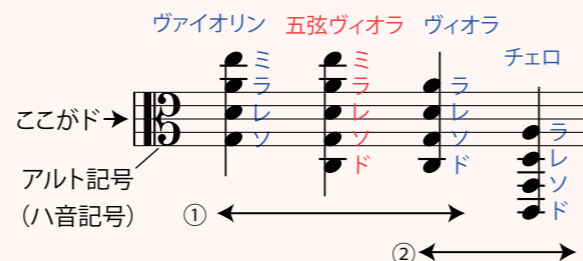
私は学生のときヴァイオリンとヴィオラの両方を演奏しており、その頃からこの2つの楽器を融合させること、加えて、ヴィオラをヴァイオリンと同じくらい弾きやすくすることを企んでいました。ヴィオラに5本目の弦を張る試みは、過去にもJ.S. Bach, Niccolò Paganini, Hermann Ritter（バイロイト祝祭管弦楽団の初代首席ヴィオリスト）などによって行われましたが、技術面で限界がありました。しかし、発展した現代の技術、特に増加したテンションと圧力に耐えられる弦と駒の製造技術、があれば、人間工学的に弾きやすかつ良い音が鳴る、真に演奏に向いた5弦ヴィオラができると考えました。実験的な弦楽器制作を行う名高い職人 David Rivinus に依頼し、数年の試行錯誤の後、2001年にとうとう理想とするヴィオラが完成しました。ヴィオリストは皆ジレンマをかかえています。小さい楽器は扱いやすいが音も小さく、しかし楽器



を大きくして音を大きくすれば演奏しにくくなります。David Rivinus にデザインしてもらったヴィオラは、非対称の形状にすることでこのジレンマを解決しました。このヴィオラはボディの斜め方向に50cmの幅があり、とても大きな音量を生み出しました。しかし演奏者の首から左手までの距離は小さいヴィオラと同等です。加えて、アッパーバウツ（ボディ上部）の右部の大きさはヴァイオリンのそれとほぼ同じで、ハイポジションへのシフトは用意です。弾きやすさは通常のヴィオラよりも優れています。さらに、5弦目が増えたことで、通常のヴィオラから1オクターブ広い音域を得ました。当然、見た目は奇妙なものになり、聴衆に「日光に当たって溶けてその形になったんじゃないですか？」なんて言われたこともありますが、この楽器の音と演奏のしやすさは私にとって理想的なのです！

#### ～開放弦の音比較～

開放弦とは、指で弦を押さえずに出す、その弦から出る最も低い音のこと。  
①ヴァイオリンとヴィオラはソ、レ、ラは共通で、上にミがあるのがヴァイオリン、下にドがあるのがヴィオラ。五弦ヴィオラはその両方を持ち、その意味でヴァイオリンとヴィオラの『融合』なのです。  
②ヴィオラとチェロはオクターブ違い。



## PART INTRODUCTION

### ～ ヴィオラ ～

今号よりパート紹介を行います。第1回は『ヴィオラ』！「なんで第1回がヴィオラなんだ！」というツッコミが聞こえます。ええわかりますとも。第1回にヴィオラを取り上げた理由、それは、この新聞の編集長がヴィオラ奏者だからです！さあ、ヴィオラの魅力？をこの機会に覚えていってください！



石オケヴィオラ五人衆。  
女性率7割を超す石オケにしてなぜか男性のみ。

ビオラ (Viola (英・伊)、Brache (独)) という楽器をご存じでしょうか？小学校の音楽の授業にも出てくるはずなのに、どうしようもない知名度の低さです。「あれ、吹いてるやつ？弾いてるやつ？」、「あー、こういうやつ？（チェロを弾く真似）」、「バイオリンより小さいんだっけ？」、これらは「ビオラを弾いてます」と自己紹介した際に実際にかけられたことのある言葉達。最近では日本国内限定で若干知名度が上がり、「ああ、皇太子がやってるやつ。ソロ楽器？」・・・。

さてそのビオラですが、バイオリンより一回り大きい弦楽器で、バイオリンとの違いは弦1本の音程だけで、バイオリンの1番高音の弦とビオラの1番低音の弦を除いた3本は全く同じ調弦です（このあたりがオーケストラで第3バイオリンといわれる所以でしょうか？）。音域的にもバイオリンとチェロに挟まれて中間管理職的存在が悩ましくなってしまう楽器です。（高弦？低弦？いえお中弦です）。\*左ページのコラム参照

楽譜は基本的にアルト記号（ハ音記号）で書かれますが、紙を節約するため高音部にはト音記号も使われます。演奏法はバイオ

リンとほとんど同じです。

音楽はメロディ・和音・リズムの3つで構成されているなどと言われますが、ビオラが担当するのは主にリズム（中でも後打ち、シンコーションのエキスパート）です。バイオリンや管楽器が楽しげにメロディを奏でる横で、無表情にあるいは「いつか見ていた僕だっ」と内に秘めた想いをもってリズムを刻みます。地味です。縁の下の力持ち的存在です。ごくたまに、メロディを弾く機会があるのですが、その時テンションはうなぎ登りですね（ビオラ弾きは集中力とTPO判断能力が必須、反面、血圧の高い人は注意が必要）。

ヴィオラの大きさは、バイオリンに比べ胴の長さで50mmほど大きいと言われますが、390mm未満のものから420mmを超えるものまでばらつきがあります。

ところで石オケビオラ5人衆がビオラを選んだ理由を訊くと、①TA（石オケの団長）：ビオラの方が出演の需要が多い、出番が多そう / ②MN（クニト先生の創造主）：チェロやコントラバスは持ち運びが大変 / ③NN（石オケ瓦版編集長）：みんなバイオリンを弾きたがるから / ④HK（芸歴は長い）：バイオリン弾きはもう足りていると言われたから / ⑤HT（ニューフェイス）：バイオリンより易しいと言われた（騙された）からと様々ですが、共通して言えることはビオラ愛好家であること！（性格が普通の人とは違っている？）。

閑話休題、普段は目立たないビオラですが、数あるオーケストラの楽器の中でも唯一「ビオラジョーク」というジョークの分野を確立しています（論文も発表されているようです）。具体的な内容は次回に譲るとして、目立たないこと、バイオリンから転向してくる人も多いこと…などなどの要素から想像してみてください。でも、そんなジョークを受け入れてしまう懐の深さもビオラ（奏者？）の魅力の1つではないでしょうか。

最後に、いい指揮者はちゃんとわかってくれているんです。過去にベルリン・フィルで振った世界的指揮者サイモン・ラトル氏の言葉です。「ビオラは影の立役者。主旋律を奏でることは少ないが、ビオラ抜きにオーケストラは成り立たない。ワインに例えれば、バイオリンがラベルで、チェロがボトル、そしてビオラが肝心の中身だ」。ビバ！ビオラ、ビオラ万歳！

（縁の下のビオラ弾き）

## RECRUITMENT

### ☆石オケ・クニトオケ団員募集

団員は随時募集しております！！

- 募集パート：ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス
- 入団基準

石オケ：原則、大学生以上。ポジション移動が出来る事。協調性と向上心が有り、なおかつ楽しみながらオーケストラ活動をしたい方！ヴァオリンパートは別途オーディションがあります。

クニトオケ：小学生～高校生。ヴァイオリンは、ポジション移動できる事が好ましい。小学生は保護者の同伴をお願いします。

- 練習日・・・基本的に月2回土曜日夕方（クニトオケ）、夜（石オケ）※演奏会前は臨時練習あり
- 練習場所・・・練馬区近辺（主に石神井公園ふるさと文化館）
- 費用（石オケ、クニトオケ共通）入団費 3,000円、団費 3,000円/月

### ☆協力会員募集

石神井 Int'l オークストラでは、定期演奏会をより充実したものにするため、協力会員を募集しております！

石オケウェブサイトをご参照の上、入団希望者は石オケウェブサイトの入団希望フォームより、協力会員は石オケ事務局 shakuoke@gmail.com へ、お申し込みよろしくお願ひ致します。